

**留学先国名** : カナダ

**留学先学校名** : ビクトリア大学

**留学期間** : 平成 27 年 4 月 11 日 ~ 平成 28 年 4 月 3 日

“世界を近くに感じた。”1年間の留学生生活を終え一番感じたことはこの言葉に尽きます。私は留学生活の1年間のホームステイで過ごしました。食事の時間や主食にしているものが異なり、最初は戸惑いました。遠慮をしてなかなか要望を伝えることができませんでした。そこでもっとホームステイファミリーと会話をして仲を深めようと考えました。その結果ホームステイで重要な食事の問題はすぐに解決され、さらにはリスニング力も上がり会話が以前より弾みました。自分の部屋にいる時間が減り、リビングでホームステイの家族と過ごす時間が多くなっていきました。私は英語を伸ばすには日常会話がとても有効だと思います。ホストマザーに言われた一言を頭の中や声に出して繰り返すことで、自分の中にすぐに吸収ができると思います。私は私のホストファミリーが大好きで感謝の思いでいっぱいです。ホームステイ先の家族の方を第二の家族と思い、素を出して一緒に時間を過ごすことで本当の絆が生まれると思います。とても有意義なホームステイ生活を送ることができました。

留学中のもう一つの大きな出会いは世界各国から来た友人たちです。幸運にもたくさんの友人に恵まれ、何よりその友人たちから多くのことを学びました。文化やバックグラウンドが違うからこそ、知ることは楽しいという思いが生まれました。日本で得た知識や学んだことがすべて正しいわけではないと改めて思いました。韓国人、台湾人、サウジアラビア人、メキシコ人やブラジル人の人たちと友人になり一緒に集まると一つにまとまるのは難しいことです。それぞれが異なる文化をもっています。しかし難しいことではありますが一つになることは不可能なことではありません。

留学中に小旅行を韓国、台湾とサウジアラビアの友人と行ったことがありました。最初は意見の一致はもちろんしませんでした。それぞれ自身が育った国で学んできた考えがあります。でもみんなお互いが好きだからこそ理解しようと相手の意見に耳を傾けます。さらには相手を知ることを楽しんでいるようにも見えました。みんなが英語を通してコミュニケーションをして、一緒にいる時間を大切にしようという思いは一緒でした。毎日が新しいことの発見の連続でした。友人と多くの時間を過ごす中で、自分の思いは英語を通してちゃんと相手に伝わっているのかなと心配に思うことがありました。その点が言語の難しい点だと思います。相談やちょっとした愚痴、たわいもない会話を母国語では簡単に伝えることができるのに、英語にして伝えるとき難しく苦戦しました。でも伝える気持ちや姿勢が大事だと思います。真剣に伝えたいという気持ちがあれば、その伝えたい相手はきっと真剣に応えてくれます。自分の意見を相手に伝えることの大切さ、受け身だけでは自分自身を成長させることができないと思います。この経験から言語の重要性を改めて考えさせられ、言葉が通じるということのありがたさに気づきました。自分とは異なる人に気持ちを伝えたい、知ってほしいという思いから人は言語を学びたいと思うのではないかと私は思います。また一人一人違う個性を持っているからこそ、それぞれ輝くのだと思います。

これから留学をする人、考えている人または留学に興味がない人すべての人に向けて私からの言葉として贈ります。もっと海外に行ってその地の本物を自分の目で見て感じてください。イメージではなく確かなものにしてください。私は日本生まれですがベトナム人です。幼少期の頃、それがコンプレックスでした。でも海外に行く機会や、多くの出会いや経験がそのコンプレックスを私の最大のチャームポイントに変えてくれました。教科書でしか知らない世界でとどまっていなくて、もっと自分の足で世界に旅立ち自分なりの本物の教科書を作ってください。自分を嫌いになることや、小さい人間だなんて思うことがあるかもしれませんが、でもそれは自分を見つめなおす大事な時間だと考えてください。その時間があるからこそ次に進むためのエネルギーに繋がると思います。

私自身この留学を通して、以前よりも自分が好きになりました。自分の視野はなんてとても小さいものだったのかと改めて気づきました。様々な経験から視野を広く柔軟的に持つということは、人生をもっと豊かにしてくれると思います。この留学は世界をもっと近くに感じるきっかけを私に与えてくれました。世界は広いですが、でもそれに近づくためには特別に難しいことはなくて、ただ自分の目標に向かうための一つのステップの積み重ねです。そのステップの積み重ねがあなたにしかない、あなただけのあなたらしい道になります。